

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5835750号
(P5835750)

(45) 発行日 平成27年12月24日(2015.12.24)

(24) 登録日 平成27年11月13日(2015.11.13)

(51) Int.Cl. F I
A 6 1 B 19/08 (2006.01) A 6 1 B 19/08

請求項の数 14 (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2013-508245 (P2013-508245)	(73) 特許権者	511193846
(86) (22) 出願日	平成23年4月28日(2011.4.28)		クック・メディカル・テクノロジーズ・リ
(65) 公表番号	特表2013-525030 (P2013-525030A)		ミテッド・ライアビリティ・カンパニー
(43) 公表日	平成25年6月20日(2013.6.20)		COOK MEDICAL TECHNO
(86) 国際出願番号	PCT/US2011/034283		LOGIES LLC
(87) 国際公開番号	W02011/137223		アメリカ合衆国、47404 インディア
(87) 国際公開日	平成23年11月3日(2011.11.3)		ナ州、ブルーミントン、ノース・ダニエル
審査請求日	平成26年4月10日(2014.4.10)		ズ・ウェイ、750
(31) 優先権主張番号	61/329,192	(74) 代理人	100083895
(32) 優先日	平成22年4月29日(2010.4.29)		弁理士 伊藤 茂
(33) 優先権主張国	米国 (US)	(74) 代理人	100175983
			弁理士 海老 裕介

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 外科用覆布キット

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

患者に外科的処置を行うための外科用覆布キットであって、
穿孔部を有する外科用覆布と、

前記外科用覆布の前記穿孔部の周囲に取り付けられた複数の容器であって、各容器の中に外科的処置を行うために用いられる複数の構成要素のうちの少なくとも一つが収容されるようにされた複数の容器と、
を備え、

前記複数の容器の各々が、

当該容器の中に収容された前記複数の構成要素のうちの少なくとも一つにアクセスするための開口部を当該容器に形成できるようにする一列に並んだ一連の穿孔と、

前記複数の構成要素のうちの少なくとも一つを当該容器の中に密封し、且つ前記複数の構成要素のうちの少なくとも一つへのアクセスのために当該容器を開放することができるようにする密封メカニズムと、

のうちの一方を有し、

前記複数の容器の各々の中に収容される前記複数の構成要素のうちの少なくとも一つは、外科的処置の順次のステップによって決定される、外科用覆布キット。

【請求項 2】

前記複数の容器が前記穿孔部の前記周囲の周辺において前記外科用覆布に順次取り付けられている、請求項 1 に記載の外科用覆布キット。

10

20

【請求項 3】

前記外科的処置の順次の前記ステップが第 1 ステップと第 2 ステップとを備えており、
前記複数の構成要素が前記第 1 ステップを行うために用いられる第 1 構成要素、及び前記第 2 ステップを行うために用いられる第 2 構成要素を備え、
前記複数の容器が、前記第 1 構成要素を中に含む第 1 容器、及び前記第 2 構成要素を中に含む第 2 容器を備える、請求項 1 または 2 に記載の外科用覆布キット。

【請求項 4】

前記複数の容器に関連した複数のラベルを更に備えており、
前記複数のラベルの各々は、
前記外科的処置のステップに対応した番号と
前記外科的処置のステップを記載した少なくとも 1 つの単語と、
のうちの一つを備える、請求項 1 乃至 3 のいずれか一項に記載の外科用覆布キット。

10

【請求項 5】

前記外科用覆布、前記複数の容器、及び前記複数の構成要素を入れるパッケージを更に備え、前記パッケージは小袋タイプのパッケージである、請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載の外科用覆布キット。

【請求項 6】

前記外科的処置が経皮的内視鏡下胃瘻造設術 (P E G) 処置であり、前記複数の構成要素が前記 P E G 処置を行うための複数の構成要素からなる、請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に記載の外科用覆布キット。

20

【請求項 7】

前記 PEG 処置のステップが、
切開を行うステップと、
補給チューブを患者の体内に挿入できるようにするために患者の体内にワイヤを挿入するステップと、
前記補給チューブを患者の体内に挿入するステップと、
ボルスターを前記補給チューブに取り付けるステップと、
アダプターを前記補給チューブに取り付けるステップと、
を含み、

前記複数の構成要素が
前記切開を行うステップに関連する少なくとも 1 つの構成要素と
前記補給チューブを患者の体内に挿入できるようにするために患者の体内にワイヤを挿入するステップに関連する少なくとも 1 つの構成要素と、
前記補給チューブを挿入するステップに関連する少なくとも 1 つの構成要素と、
前記ボルスターを前記補給チューブに取り付けるステップに関連する少なくとも 1 つの構成要素と、
前記アダプターを前記補給チューブに取り付けるステップに関連する少なくとも一つの構成要素と、を備え、

30

前記複数の容器が、
前記切開を行うステップに関連する構成要素を中に含む第 1 容器と、
前記患者の体内に補給チューブを挿入できるようにするために患者の体内にワイヤを挿入するステップに関連する少なくとも 1 つの構成要素を中に含む第 2 容器と、
前記補給チューブを挿入するステップに関連した前記少なくとも一つの構成要素を中に含む第 3 容器と、
前記ボルスターを前記補給チューブに取り付けるステップに関連した前記少なくとも 1 つの構成要素、及び前記アダプターを前記補給チューブに取り付けるステップに関連した前記少なくとも 1 つの構成要素を中に含む第 4 容器と、を備えている、請求項 6 に記載の外科用覆布キット。

40

【請求項 8】

前記切開を行うステップに関連する前記少なくとも 1 つの構成要素が外科用メスを備え

50

る、請求項7に記載の外科用覆布キット。

【請求項 9】

前記切開を行うステップに関連する前記少なくとも1つの構成要素が、少なくとも1つの注射器、少なくとも1つの針、及び塩酸リドカインの容器を更に備える、請求項8に記載の外科用覆布キット。

【請求項 10】

前記患者の体内に補給チューブを挿入できるようにするために患者の体内にワイヤを挿入するステップに関連する前記少なくとも一つの構成要素は、ガイドワイヤとループ状の端を有する挿入ワイヤとのうちの1つを備え、

前記 P E G 処置を行うためにプッシュ法が用いられる場合には、前記ガイドワイヤと前記ループ状の端を有する前記挿入ワイヤとのうちの前記1つは前記ガイドワイヤを備え、前記 P E G 処置を行うためにプル法が用いられる場合には、前記ガイドワイヤと前記ループ状の端を有する前記挿入ワイヤのうちの前記1つは前記挿入ワイヤを備える、請求項7に記載の外科用覆布キット。

10

【請求項 11】

前記患者の体内に補給チューブを挿入できるようにするために患者の体内にワイヤを挿入するステップに関連する前記少なくとも1つの構成要素は、更に、コールドスネアと針カニキュレのうちの少なくとも1つを備える、請求項10に記載の外科用覆布キット。

【請求項 12】

前記補給チューブを挿入するステップに関連した前記少なくとも1つの構成要素は前記補給チューブを備える、請求項7に記載の外科用覆布キット。

20

【請求項 13】

前記ボルスターを前記補給チューブに取り付けるステップに関連した前記少なくとも1つの構成要素は前記ボルスターを備え、前記アダプターを前記補給チューブに取り付けるステップに関連する前記少なくとも1つの構成要素は、万能アダプターとボラスアダプターのうちの少なくとも1つを備える、請求項7に記載の外科用覆布キット。

【請求項 14】

前記アダプターを前記補給チューブに取り付けるステップに関連する前記少なくとも1つの構成要素は、更に、鉗子、ハサミ、少なくとも1つのケーブルタイ、少なくとも1つのパッケージのポピドンヨード、少なくとも1つのツイストロックタイ、及び補給チューブクランプを備える、請求項13に記載の外科用覆布キット。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、概して、外科用キットに関し、より詳細には、外科用覆布キットの改善されたパッケージと配置に関する。

【背景技術】

【0002】

外科用覆布は、外科的処置の間、患者を覆って、手術部位の周囲に滅菌環境を作り且つ維持するため用いられる。外科用覆布は、通常、穿孔としても知られる開口部を有し、それを通じて外科的処置が行われる。接着部材を覆布の周辺に取り付けて、覆布が、手術部位のあたりの所定の位置に保持され、また血液が覆布と患者の人体の間を流れないようにすることができる。外科用覆布は、手術時に血液及びその他の液体を吸収するように吸収性素材によって作られるのが好ましいことが多い。

40

【0003】

外科用覆布は、所定の処置のための外科用キットの一部である。外科用キットには、医療道具、装置及び当該処置で用いられるその他の部材が含まれる。外科用キットとして、医療装置、道具、及びその他の部材が外科医等のユーザーに包装済みの物として提供される。ユーザーは、処置時に必要なキットの内容物を用いる。しばしば、当該キットを備え

50

る医療装置及び道具は、処置がなされた後に配置される。そのため、当該セットの装置は、ユーザーに消毒されて提供され、一般に、一回だけの使用が意図されている。

【 0 0 0 4 】

外科用キットを利用する処置の具体例に、経皮的内視鏡下胃瘻造設術（ P E G ）がある。 P E G は、患者の腹部に補給チューブを入れるための内視鏡的処置である。 P E G 処置を行う 2 つの技術にプッシュ法とプル法がある。それ故、 P E G キットの内容物は、使用される P E G 技術に依存する。

【 0 0 0 5 】

P E G キットには、以下のものが含まれる。シリコンの補給チューブ、プッシュ法の使用時にはガイドワイヤ、プル法の使用時には挿入ワイヤ、注射器、少なくとも 1 つの針（ 2 2 ゲージ針と 2 5 ゲージ針の 2 つの針があるのが好ましい）外科用メス、針カニューレ、塩酸リドカイン（例えば、キシロカイン（登録商標） 1 % ）、綿棒（例えば、クロラブレップ（登録商標）トリプル・綿棒）、ポビドンヨード、水溶性潤滑剤、ボスルター、少なくとも 1 つのツイストロック、少なくとも 1 つのケーブルタイ、ハサミ、万能アダプター、ボーラスアダプター、補給アダプター（当該キットが国際的に販売されている場合）、ガーゼパット、外科用覆布、及びコールドスネアである。

【 0 0 0 6 】

P E G 処置で使用される医療装置及び道具は、 P E G キットの形態での使用用に収納される。 P E G キットの具体例には、ウィルソン・クック・メディカル社 (Wilson-Cook Medical, Inc.) の P E G 2 4 （登録商標）キットがある。 P E G 2 4 （登録商標）キットは、熱成型されたプラスチック容器に収められている。カバーは、接着剤を用いて熱成型された容器の蓋に取り付けられている。熱成型された容器内にある P E G 2 4 （登録商標）キットの構成要素は、蓋からカバーをめくることにより取り出される。

【 0 0 0 7 】

P E G 2 4 （登録商標）キットには、熱可塑性プラスチック材料からなる準備トレイが含まれる。注射器、 2 2 ゲージ針、 2 5 ゲージ針、外科用メス、針カニューレ及び塩酸リドカイン（例えば、キシロカイン（登録商標） 1 % ）は、準備トレイにしっかりと留められている。外科用覆布、ガイドワイヤ（プッシュ技術が使用されている場合）、挿入ワイヤ（プル法が使用されている場合）、ガーゼパット、コールドスネア、ポビドンヨード綿棒、綿棒、及び水溶性潤滑剤は、準備トレイの上にゆるく置かれている。ボルスター式と補給チューブは、準備トレイの下に収められている。ボルスターキットには、ボルスター、ツイストロック、ケーブルタイ、ハサミ、万能アダプター、及びボーラスアダプターが含まれる。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 8 】

一般に、外科用キットは、当該キット内の物が汚染されたり、紛失したり、損傷する可能性を最小限にするように収められていなければならない。加えて、外科用キットは、処置時に当該キットの構成要素が、それを必要としているユーザーにできるだけ利用し易いように配置されなければならない。つまり、外科医等のユーザーが、できるだけ早く且つ容易に、必要な物を認識し、手にし、そして外科的部位へと動かすことができればならない。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 9 】

本発明は、患者に外科的処置を施すために使用される外科用覆布を有する外科用キットの改良されたパッケージと配置を提供する。本発明は、穿孔部を有する外科用覆布、当該外科用覆布に取り付けられた複数の容器、及び外科的処置を行うために用いられる複数の構成要素を備える外科用覆布セットに関するものであり、各容器には、少なくとも 1 つの構成要素が配置され、各容器内に配置している複数の構成要素は、外科的処置の順次のステップによって決定され、当該容器は、穿孔部の周辺において当該外科用覆布に取り付け

られている。

【0010】

外科用覆布を有する外科用キットを用いる1つの外科的処置に、経皮的内視鏡下胃瘻造設術（PEG）処置がある。PEG処置は、切開をするステップ、患者の体内に補給チューブを挿入できるようにするためにワイヤを挿入するステップ、患者の体内に補給チューブを挿入するステップ、補給チューブにボルスターを取り付けるステップ、アダプターを補給チューブに取り付けるステップ等、個別のステップに分割することができる。容器内の複数の構成要素の配置の決定は、PEG処置を行うためのこれらのステップに基づいている。

【0011】

10

好ましい実施形態では、当該外科用覆布キットは、4つの容器を備える。第1容器には、切開を行うステップに関する構成要素が含まれる。第2容器には、補給チューブを挿入できるようにするためにワイヤを挿入するステップに関する構成要素が含まれる。第3容器には、補給チューブを挿入するステップに関連した構成要素が含まれる。第4容器には、補給チューブにボルスターを取り付けるステップに関連した構成要素と、補給チューブにアダプターを取り付けるステップに関連した構成要素とが含まれる。

【0012】

切開をするステップに関連する構成要素には、外科用メスが含まれ、さらに、注射器、22ゲージ針及び25ゲージ針、並びに塩酸リドカインの容器が含まれる。補給チューブを挿入できるようにするためにワイヤを挿入するステップに関連する構成要素には、プッシュ法を用いてPEG処置を行う際はガイドワイヤが、プル法を用いてPEG処置を行う際は挿入ワイヤが含まれ、更に、コールドスネアと針カニューレが含まれる。補給チューブを挿入するステップに関連する構成要素には、補給チューブが含まれ、更に、少なくとも1つのガーゼパットと少なくとも1つの水溶性潤滑剤の包みが含まれる。ボルスターを補給チューブに取り付けるステップに関連する構成要素には、ボルスターが含まれ、更に、少なくとも1つのパッケージのポビドンヨード軟膏が含まれる。アダプターを補給チューブに取り付けるステップに関連する構成要素には、少なくとも1つの万能アダプター及びボラスアダプターが含まれ、更に、鉗子、ハサミ、少なくとも1つのケーブルタイ、少なくとも1つのツイストロックタイ、及び補給チューブクランプが含まれる。

20

【図面の簡単な説明】

30

【0013】

【図1】外科用覆布キットの好ましい実施形態の頂図であり、穿孔の周辺において外科用覆布に時計回りに順次取り付けられた4つの容器を示している。

【0014】

【図2】切開を行うステップに関連した好ましい実施形態の第1容器内の構成要素の頂図である。

【0015】

【図3】患者の体内に補給チューブを挿入できるようにするために患者の体内にワイヤを挿入するステップに関連した好ましい実施形態の第2容器内の構成要素の頂図である。

【0016】

40

【図4】補給チューブを挿入するステップに関連した好ましい実施形態の第3容器内の構成要素の頂図である。

【0017】

【図5】ボルスターを補給チューブに取り付けるステップに関連し、またアダプターを補給チューブに取り付けるステップに関連する好ましい実施形態の第4容器内にある構成要素の頂図である。

【0018】

【図6】穿孔を有する容器の頂図である。

【0019】

【図7】密閉メカニズムを有する容器の頂図である。

50

【 0 0 2 0 】

【図 8】特定の容器内の構成要素が使用される手順の一部を記載してあるラベルを有する外科用覆布の頂図であって、当該ラベルが関連する容器の付近にある外科用覆布に取り付けられている図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 2 1 】

本発明は、外科用覆布 1 2 と、外科用覆布 1 2 に取り付けられた複数の容器 1 4 と、外科的処置を行うために使用される複数の構成要素 1 8 - 5 4 とを備える外科用覆布キットを対象とし、各容器 1 4 は、その中に配置される少なくとも 1 つの構成要素 1 8 - 5 4 を含んでいる。各容器 1 4 の内部に配置される構成要素 1 8 - 5 4 は、外科的処置の順次の

10

【 0 0 2 2 】

本発明の外科用覆布キット 1 0 は、外科用キットを利用する外科的処置のために利用されてもよい。外科用キットを利用する外科的処置の一例としては、経皮的内視鏡下胃瘻造設術 (P E G) 処置がある。

【 0 0 2 3 】

P E G 処置 (プッシュ法或いはプル法) を行う前に、胃を見るために胃カメラが口を通り食道を下って挿入される。胃をふくらませ、粘膜に潰瘍がないことを確認するために粘膜を調べる。胃カメラは、その明かりが所望の P E G 部位を全体的に明るくするように配

20

【 0 0 2 4 】

プッシュ法を用いた P E G 処置を行う場合、P E G 部位が外科用覆布 1 2 を用いて覆われ、局所麻酔剤が当該部位に注入される。皮膚と皮下組織を通じた切開が外科用メスを用いて行われる。切開を行う前に、綿棒 5 6 を切開部位に付ける。綿棒 5 6 は、外科用覆布が患者に覆い被せられる前又は後に利用される。

【 0 0 2 5 】

切開が行われた後で、胃が膨らんでいる間に、針 3 0 とカニユーレ 3 8 が切開を通して胃へと挿入される。一旦胃の中に入れられると、カニユーレ 3 8 は所定の場所に残され、針 3 0 は取り除かれる。

30

【 0 0 2 6 】

針 3 0 が取り除かれた後に、ガイドワイヤ 1 8 の先端がカニユーレ 3 8 を通して胃へと挿入される。

【 0 0 2 7 】

次に、コールドスネア 3 6 が胃カメラのチャンネルを通して挿入される。コールドスネア 3 6 が胃の内部に到達すると、当該スネア 3 6 は、ガイドワイヤ 1 8 の端を掴む。スネア 3 6 がガイドワイヤ 1 8 の端にしっかりと取り付けられる一方で、胃カメラとガイドワイヤ 1 8 は胃から患者の口を通して取り除かれ、ガイドワイヤ 1 8 を口と切開部位から突き出たままにする。

【 0 0 2 8 】

40

それから、補給チューブ 2 0 が患者の体内に挿入される。補給チューブ 2 0 は、第 1 端にある拡張器の先端を有する第 1 部と第 2 端にある後端キャップあるいは「チューリップ状の先端」を有する第 2 部とを備える。患者に挿入される前に、補給チューブ 2 0 は、水溶性潤滑剤を用いてすべりをよくされる。当該チューブ 2 0 がすべりよくなった後、補給チューブ 2 0 は、拡張器先端から、ガイドワイヤ 1 8 上を患者の口を通して進められる。第 2 端が胃の中でカニユーレ 3 8 と接触すると、第 1 部が胃の胃壁を通して押し込まれる。第 1 端が胃壁を通過した後、ガイドワイヤ 1 8 は解放され、補給チューブ 2 0 とガイドワイヤ 1 8 が胃壁を通して引っぱられる。

【 0 0 2 9 】

チューリップ状の先端が口の中に入ると、胃カメラは、食道を通して胃に進むときのチ

50

ューリップ状の先端を見るために、患者の口の中に再導入される。第１部が胃の切開部を
通って引かれると、チューリップ状の先端が胃壁に接触するようになる。その後に、ガイ
ドワイヤ１８が取り除かれる。

【００３０】

次に、ボルスター２２を第１端で補給チューブ２０上に配置し患者の皮膚へと滑らせる
ことで、ボルスター２２をＰＥＧ部位にある補給チューブ上に配置する。ボルスターの位
置をずらす前に、ポビドンヨードを切開部位の体組織に塗布する。ボルスター２２が皮膚
の表面に係合した後、当該チューブ２０の余分な部分はハサミ４６を用いて切られる。「
Ｘマーク」は、チューブ２０の余分な部分を切り落とす場所を示している。ツイストロッ
クタイ５０或いはケーブルタイ４８が、ボルスター２２をチューブ２０に固定するために
使用され、チューブ２０のその後の移動を防止してチューブ２０を再配置する必要性を減
らしている。ハサミ４６は、ケーブルタイ４８の余分な長さを切り落とすために使用され
る。最後に、万能アダプター２４ａとボラスアダプター２４ｂ或いは補給アダプター２
４ｃが拡張器の先端にある補給チューブ２０の第１部に取り付けられる。

10

【００３１】

また、プル法を用いてＰＥＧ処置を行う場合には、ＰＥＧ部位が外科用覆布１２を用い
て覆われ、局部麻酔剤が当該部位に注入される。皮膚と皮下組織を通じた切開が外科用メ
スを用いて行われる。切開を行う前に、綿棒５６を切開部位に加える。綿棒５６は、外科
用覆布が患者に被せられる前又は後に使用される。

20

【００３２】

切開が行われた後で、胃が膨らんでいる間に、針３０とカニユーレ３８が切開を通して
胃へと挿入される。一旦胃の中に入られると、カニユーレ３８は、所定の場所に残され
、針３０は取り除かれる。

【００３３】

針３０が取り除かれた後に、挿入ワイヤ１８が、カニユーレ１８を通して胃へと挿入さ
れる。

【００３４】

次に、コールドスネア３６が胃カメラのチャンネルを通して挿入され、挿入ワイヤ１８の
ループ状の端を掴む。生検鉗子が、コールドスネア３６の代わりに使用される。コールド
スネア３６或いは生検鉗子は、挿入ワイヤ１８のループ状の端にしっかりと取り付けられ
、胃カメラと挿入ワイヤ１８は胃から患者の口を通して取り除かれ、挿入ワイヤ１８のル
ープ状の端を口から突き出させ、挿入ワイヤ１８の第２端を切開部位から突き出させる。

30

【００３５】

次に、補給チューブが患者に挿入される。プル法を用いて補給チューブ２２を挿入する
ために、患者の口から突き出ている挿入ワイヤ１８のループ状の端と補給チューブ２０の
第１端にあるワイヤのループ状の端の間に無結節接続が形成される。無結節接続を作るた
めに、挿入ワイヤ１８のループ状の端が補給チューブ２０のループ状のワイヤを通して送
られ、それから、チューリップ先端が挿入ワイヤ１８のループ状の端を通して配置される
。その後、補給チューブ２０は、挿入ワイヤ１８のループ状の端を通して引かれる。挿入
ワイヤ１８と補給チューブ２０のワイヤの間の無結節接続は、ワイヤのループ状の端を反
対方向に引くことによって形成される。

40

【００３６】

補給チューブ２０が患者に挿入される前に、補給チューブ２０は、水溶性潤滑剤を用い
てすべりをよくされる。すべりがよくされた後、補給チューブ２０は、切開部位から突き
出ている挿入ワイヤ１８の第２端で引くことによって、拡張器の先端から患者の口を通
って進められる。挿入ワイヤ１８は、第１部が胃壁を通して突き出るまで引っぱられる。

【００３７】

チューリップ状の先端が口の中に入ると、胃カメラが、食道を通して胃へと進むときの
チューリップ状の先端を見るために、患者の口の中に再導入される。第１部が胃の切開部
を通して引かれると、チューリップ状の先端が胃壁と接触するようになる。その後に、挿

50

入ワイヤ 18 が取り除かれる。

【0038】

次に、ボルスター 22 を第 1 端において補給チューブ 20 のループ状のワイヤに置き、患者の皮膚へと補給チューブ 20 上をボルスター 22 を滑らせることで、ボルスター 22 を PEG 部位にある補給チューブ 20 上に配置する。ボルスターを滑らせて配置させる前に、ポビドンヨードを切開部位で体組織に塗り付ける。ボルスター 22 が皮膚の表面に係合した後、チューブの余分な部分はハサミ 46 を用いて切り取られる。「X マーク」は、チューブ 20 の余分な部分を切り取る場所を示している。ツイストロックタイ 50 或いはケーブルタイ 48 が、ボルスター 22 をチューブ 20 に固定するために使用され、チューブ 20 のその後の移動を防止してチューブ 20 の再配置の必要性を減らしている。ハサミ 46 は、ケーブルタイ 48 の余分な長さを切り落とすために使用される。その後、万能アダプター 24 a、ボラスアダプター 24 b 或いは補給アダプター 24 c が、拡張器の先端にある補給チューブ 20 の第 1 部に取り付けられる。

10

【0039】

上記の記載に基づいて、PEG 処置は以下のステップに分けることができる。切開をするステップ、補給チューブを患者の体内に挿入できるように患者の体内にワイヤを挿入するステップ、補給チューブを患者の体内に挿入するステップ、ボルスターを補給チューブに取り付けるステップ、及びアダプターを補給チューブに取り付けるステップである。複数の構成要素 18 - 54 の容器 14 内での配置は、これらの PEG 処置のステップに基づいている。

20

【0040】

図 1 から図 5 は、PEG 処置を行うための外科用覆布キットの好ましい実施形態を示している。図 1 に示すように、外科用覆布キット 10 は、外科用覆布 12 に取り付けられた 4 つの容器を備える。第 1 容器 14 a は、切開を行うことを含む PEG 処置のステップに関連した構成要素を含む。第 2 容器 14 b は、補給チューブ 20 を患者の体内に挿入できるようにするために患者の体内にワイヤ 18 を挿入することを含む PEG 処置のステップに関連した構成要素を含む。PEG 処置がプッシュ法を用いて行われる場合には、ワイヤ 18 はガイドワイヤとなる。PEG 処置がプル法を用いて行われる場合には、ワイヤ 18 はループ状の端を有する挿入ワイヤとなる。第 3 容器 14 c は、補給チューブ 20 を患者の体内に挿入することを含む PEG 処置のステップに関連した構成要素を含む。第 4 容器 14 d は、ボルスター 22 を補給チューブ 20 に取り付けを行うことを含む PEG 処置のステップ、及びアダプター 24 を取り付けを行うことを含む PEG 処置のステップに関連した構成要素を含む。

30

【0041】

図 2 に示すように、好ましい実施形態では、第 1 容器 14 a は、外科用メス 26、好ましくは 11 番外科用メスと、注射器 28、好ましくは 6 ミリリットルのルアロック注射器と、取り外し可能な針ケーシングを有する少なくとも 1 つの針 30、好ましくは 22 ゲージのモノジェクト針 30 a と 25 ゲージのモノジェクト針 30 b と、塩酸リドカイン 34 の容器、好ましくは 5 ミリリットルの 1% キシロカイン（登録商標）と、を含む。

【0042】

図 3 に示すように、好ましい実施形態では、第 2 容器 14 b は、ワイヤ 18、コールドスネア 36、及び針カニューレ 38 を含む。ワイヤ 18 は、PEG 処理を行うためにプッシュ法が用いられる場合にはガイドワイヤであり、プル法が用いられる場合にはループ状の端を有する挿入ワイヤである。

40

【0043】

図 4 に示すように、好ましい実施形態では、第 3 容器 14 c は、水溶性潤滑剤 40 の少なくとも 1 つのパッケージと少なくとも 1 つのガーゼパット 42 とを含む。水溶性潤滑剤 40 の少なくとも 1 つのパッケージは、各々 3 グラムの潤滑ゼリーを有する 2 つのパッケージ 40 a と 40 b を備えることが好ましく、少なくとも 1 つのガーゼパット 42 は、5 つのガーゼパット 42 a - 42 e と補給チューブ 20 とを備えることが好ましい。

50

【 0 0 4 4 】

図 5 に示すように、好ましい実施形態では、第 4 容器 1 4 d は、補給用入口開口部 6 0、洗浄用入口開口部 6 2、及び補給用入口開口部 6 0 或いは洗浄用入口開口部 6 2 のいずれか一方から補給チューブ 2 0 へと投入された部材を送るための出口開口部 6 4 を備える万能アダプターと、ボラスアダプター 2 4 b と、ボルスター 2 2 と、鉗子 4 4 と、ハサミ 4 6 と、少なくとも 1 つのケーブルタイ 4 8 と、少なくとも 1 つのツイストロックタイ 5 0 と、補給チューブクランプ 5 2 と、少なくとも 1 つのポビドンヨードのパッケージ 5 4 とを含む。鉗子 4 4 は、真っ直ぐなモスキート止血鉗子であるのが好ましく、ハサミ 4 6 は、5 . 5 インチのメイヨーハサミ (mayo scissors) であることが好ましい。

【 0 0 4 5 】

好ましい実施形態では、図 1 に示すように、容器 1 4 は、穿孔部 8 2 の周辺において外科用覆布に取り付けられている。容器 1 4 は、外科用覆布に概ね穿孔部 8 2 の形状に一致するように取り付けられている。例えば、図 1 に示すように、穿孔部 8 2 は円形をしており、容器 1 4 は、概ね穿孔部 8 2 の円形に一致するように周囲 8 0 の周りに取り付けられている。更に、容器 1 4 は、容器 1 4 が穿孔部 8 2 の如何なる部分も覆うことなく、できるだけ穿孔部に近接するように外科用覆布に取り付けられている。または、いくらかの空間が容器 1 4 と穿孔部 8 2 の周囲 8 0 との間にあってもよい。一般に、容器 1 4 は、容器 1 4 が外科的処置を妨げることなく、できるだけ穿孔部 8 2 に接近するように外科用覆布に取り付けられる。このようにして穿孔部 8 2 の周辺に容器を取り付けることで、構成要素 1 8 - 5 4 を迅速かつ容易に手にして穿孔部 8 2 にまで移動できるようになる。

【 0 0 4 6 】

容器 1 4 は、穿孔部 8 2 の周囲 8 0 の周りににおいて外科用覆布に順次取り付けられる。例えば、図 1 に示すように、容器 1 4 は、穿孔部 8 2 の周りに、時計回りに順次取り付けられる。第 1 容器 1 4 a の位置を基準位置として用いると、第 1 容器 1 4 a は穿孔部 8 2 の右に取り付けられ、第 2 容器 1 4 b は穿孔部 8 2 の下に取り付けられ、第 3 容器 1 4 c は穿孔部 8 2 の左に取り付けられ、第 4 容器 1 4 d は穿孔部 8 2 の上に取り付けられる。

【 0 0 4 7 】

または、容器 1 4 は、穿孔部 8 2 の周りに、反時計回りに順次取り付けられていても良い。例えば、第 1 容器 1 4 a の位置を基準位置として用いると、第 1 容器 1 4 a は穿孔部 8 2 の右に取り付けられ、第 2 容器 1 4 b は穿孔部 8 2 の上に取り付けられ、第 3 容器 1 4 c は穿孔部 8 2 の左に取り付けられ、第 4 容器 1 4 d は穿孔部 8 2 の下に取り付けられる。

【 0 0 4 8 】

また別の実施形態では、容器 1 4 は、外科用覆布に穿孔部 8 2 の周りで順番にではなく取り付けられる。例えば、第 1 容器の位置を基準位置として用いると、第 1 容器 1 4 a は穿孔部 8 2 の左に取り付けられ、第 2 容器 1 4 b は穿孔部 8 2 の右に取り付けられ、第 3 容器 1 4 c は穿孔部 8 2 の上に取り付けられ、第 4 容器 1 4 d は穿孔部 8 2 の下に取り付けられる。

【 0 0 4 9 】

容器 1 4 は、両面テープを用いて外科用覆布に取り付けられても良い。使用できる両面テープの具体例としては、アシル化接着剤を用いた二重コーティング医療用テープがある。また、ベルクロ (登録商標) 等の複数の面ファスナーが、外科用覆布 1 2 に穿孔部 8 2 の周り 8 0 で貼られてもよく、同様に、面ファスナー部材が各容器 1 4 に貼られてもよい。容器 1 4 の各々は、各容器に貼られた面ファスナー部材が外科用覆布 1 2 に貼られた面ファスナー部材と係合することで、外科用覆布 1 2 に取り付けられる。

【 0 0 5 0 】

好ましい実施形態では、容器 1 4 は、透明でビニール製の袋である。図 6 に示すように、各袋 1 4 は、穿孔 8 4 を備える。袋 1 4 の穿孔 8 4 によって、構成要素 1 8 - 5 4 を、構成要素 1 8 - 5 4 を使用する必要性を有する前から袋 1 4 内にしっかりと含めることができる。更に、穿孔 8 4 によって、袋 1 4 内の構成要素 1 8 - 5 4 に容易にアクセスする

10

20

30

40

50

ために、袋に開口部を容易に創ることが可能となる。

【 0 0 5 1 】

または、容器 1 4 は密閉メカニズム 8 6 を備える再密閉可能な袋であり、構成要素 1 8 - 5 4 を手にするために開放され、その後に再密閉できるようにされた袋 1 4 とすることもできる。例えば、図 7 に示すように、密閉メカニズムは、ジッパー保存袋で用いられるジッパーとすることができる。穿孔 8 4 を有する透明ビニール袋と密閉メカニズム 8 6 を有する透明ビニール袋は、P E G 処置の構成要素 1 8 - 5 4 を含むための外科用覆布キット 1 0 に取り付けられる容器の 2 つの具体例であり、当業者は、他のタイプの類似の使用可能な容器が、穿孔 8 4 を有する袋、及び / または、密閉メカニズム 8 6 を有する袋の代わりかそれと組み合わせて用いられることを認識している。

10

【 0 0 5 2 】

外科用覆布キット 1 0 は、構成要素 1 8 - 5 4 がいずれの容器 1 4 にあるかを示すラベル 8 8 をさらに備えている。図 1 に示すように、ラベル 8 8 は、容器 1 4 に取り付けられる。ラベル 8 8 の数は、容器 1 4 の数に対応する。また、図 8 に示すように、ラベル 8 8 は、容器 1 4 の近くで外科用覆布 1 2 に取り付けられてもよい。

【 0 0 5 3 】

いずれの構成要素 1 8 - 5 4 がいずれの容器 1 4 にあるかを示すために、ラベル 8 8 は番号を有する。例えば、図 1 に示すような好ましい実施形態では、4 つの容器 1 4 があるので、第 1 ラベル 8 8 a は 1 の番号が付けられ、第 2 ラベル 8 8 b は 2 の番号が付けられ、第 3 ラベル 8 8 c は 3 の番号が付けられ、第 4 ラベル 8 8 d は 4 の番号が付けられている。

20

【 0 0 5 4 】

または、ラベル 8 8 は、特定の容器内の構成要素が使用される処置のステップを示す単語や符号を有しても良い。例えば、図 8 に示すように、切開を行うために用いられる構成要素は、第 1 容器 1 4 a に置かれ、第 1 ラベル 8 8 a は、「切開」のラベルが貼られる。同様に、補給チューブ 2 0 の患者の体内への挿入を可能にするためにワイヤ 1 8 を患者の体内に挿入するために用いられる構成要素は第 2 容器 1 4 b に置かれ、第 2 容器 8 8 b は、「ガイドワイヤ」或いは「挿入ワイヤ」のラベルが貼られる。補給チューブ 2 0 を患者の体内に挿入するために用いられる構成要素は、第 3 容器 1 4 c に置かれ、第 3 ラベル 8 8 c は、「補給チューブ」のラベルが貼られる。ボススター 2 2 を補給チューブ 2 0 に加えるのに用いられる構成要素と、アダプター 2 4 を補給チューブ 2 0 に取り付けのために用いられる構成要素は、第 4 容器 1 4 d に置かれ、第 4 ラベル 8 8 d は、「ボススター / アダプター」のラベルが貼られる。

30

【 0 0 5 5 】

図 1 に示すように、外科用覆布 1 2 の穿孔部 8 2 は、外科用覆布 1 2 の円形開口部であり、当該処置を行うために患者にアクセスすることを許容する。P E G 処置時に患者に覆布 1 2 を固定するために、接着剤コーティングが、覆布の下側面及び穿孔部 8 2 の周辺に塗布されている。更に、覆布 1 2 は、手術時に血液及び他の流体物を吸収するために吸収素材からできている。

【 0 0 5 6 】

外科用覆布キット 1 0 は、袋タイプのパッケージを用いて包装される。袋は、当業者によって理解されるような多様な素材からなる。そのような素材には、ポリ塩化ビニル、ポリエチレン、ポリオレフィン、ポリプロピレン、ポリエステル、プラスチック或いは、紙が含まれるが、それらに限定されない。

40

【 0 0 5 7 】

外科用覆布キット 1 0 を包装する際に、外科用覆布キット 1 0 が折りたたまれてもよい。外科用覆布キット 1 0 が折りたたまれた後で且つ折りたたまれた外科用覆布キット 1 0 が容器の内側に置かれる前に、1 パッケージの綿棒 5 6 が折りたたまれた外科用覆布 1 2 の一側面に取り付けられる。外科用覆布キットのユーザーが包装された外科用覆布キット 1 0 を受け取り、袋から外科用覆布キット 1 0 を取り出す際に、ユーザーは、包装された

50

外科用覆布キット 10 を広げる前に綿棒のパッケージを外科用覆布から取り外すことができる。または、外科用覆布 10 が折りたたまれる前に、綿棒のパッケージが外科用覆布に取り付けられていても良い。外科用覆布キットのユーザーが外科用覆布キット 10 を袋から取り出すときに、ユーザーは、綿棒のパッケージを外科用覆布 12 から取り外す前に、外科用覆布キット 10 を広げて患者の体の上に外科用覆布を置いてよい。

【 0 0 5 8 】

容器 14 内における P E G 処置の構成要素 18 - 54 の配置は、外科用覆布キット 10 が包装される前に決定され、P E G 処置を行なうユーザーに送られる。また、外科用覆布キット 10 が包装されてユーザーに送られる前に、容器 14 は外科用覆布 12 に取り付けられる。このように、ユーザーが包装された外科用覆布キット 10 を受け取る時に、ユーザーは、所定の配置に従って構成要素 18 - 54 が容器 14 内に配置された状態で、覆布 12 に取り付けられた容器 14 を有する外科用覆布 12 をパッケージから取り外すことができる。

【 0 0 5 9 】

本発明の多様な実施形態の上記記述は、説明と記述のために示されている。本発明は、開示された正確な実施形態に尽きるものでもなく、またそれに限定される意図はない。多くの修正或いは変更が上記の教示に照らして可能である。記述された実施形態は、本発明の原理とその実践的応用の最良の記述を提供するものであり、それによって、当業者は、本発明は、多様な実施形態で利用可能であり、考慮される特定の使用に適した多様な修正を施すものである。そうした修正や変更は、公正に、適法に、そして衡平に権利を与えられる範囲に従って、解釈されるとき、添付される特許請求の範囲により決定される発明の範囲内にある。

【 図 1 】

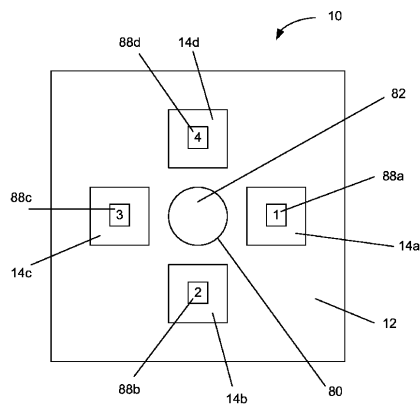


FIG. 1

【 図 2 】

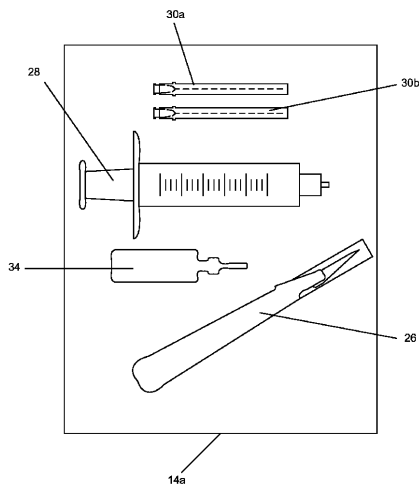


FIG. 2

【図3】

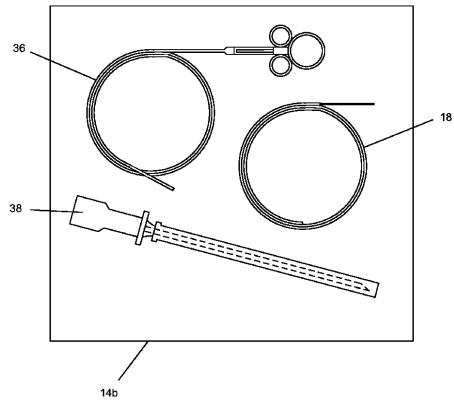


FIG. 3

【図4】

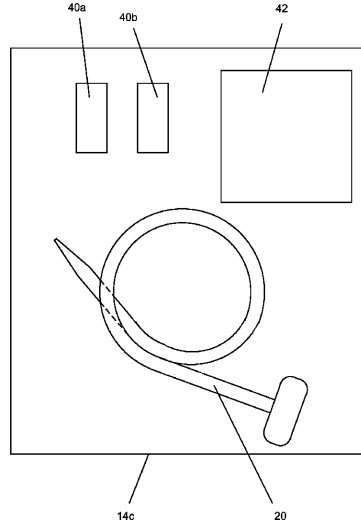


FIG. 4

【図5】

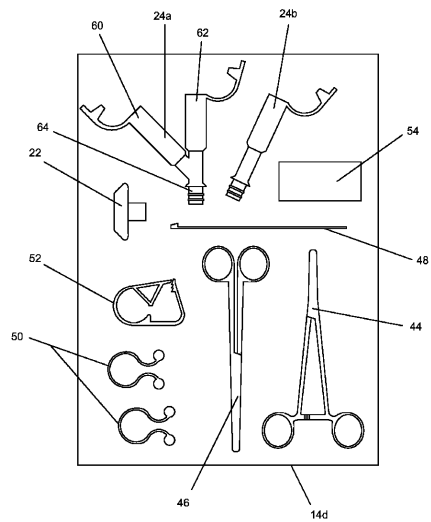


FIG. 5

【図7】

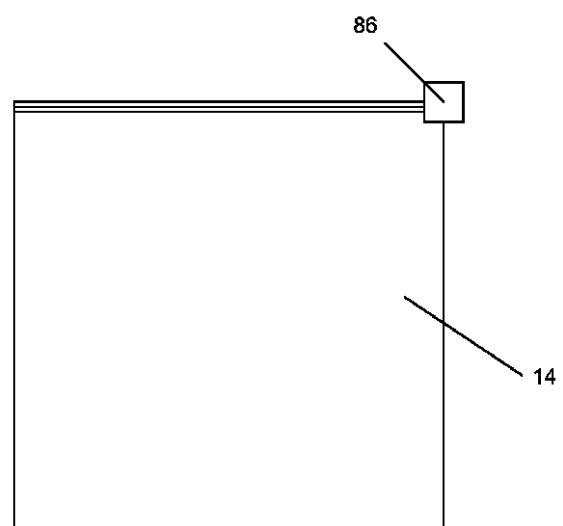


FIG. 7

【図6】

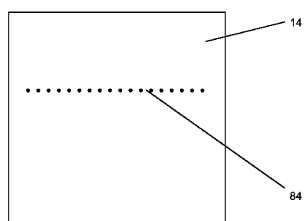
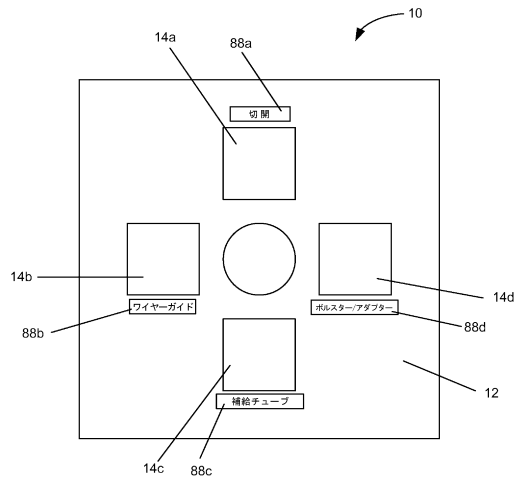


FIG. 6

【図 8】

**FIG. 8**

フロントページの続き

(72)発明者 マッコロウ, アンドレ

アメリカ合衆国 27310 ノースカロライナ州, オーク リッジ, ブロムフィールド ロ
ード 8501

審査官 沼田 規好

(56)参考文献 特表2006-511285(JP,A)

特開2002-136597(JP,A)

特表2003-512126(JP,A)

特開平08-047499(JP,A)

特開2002-302217(JP,A)

米国特許第04476860(US,A)

米国特許第05170804(US,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61B 19/08

专利名称(译)	手术覆盖套件		
公开(公告)号	JP5835750B2	公开(公告)日	2015-12-24
申请号	JP2013508245	申请日	2011-04-28
[标]申请(专利权)人(译)	库克医学技术有限责任公司		
申请(专利权)人(译)	库克医疗技术有限责任公司		
当前申请(专利权)人(译)	库克医疗科技有限责任公司		
[标]发明人	マッコロウアンドレ		
发明人	マッコロウ, アンドレ		
IPC分类号	A61B19/08 A61B46/23		
CPC分类号	A61B46/00 A61B46/23 A61B50/00 A61B90/90 A61B2017/00818 A61B2046/234 A61B2046/236 A61B50/30 A61B2050/314 A61J15/0019		
FI分类号	A61B19/08		
代理人(译)	伊藤 茂 海老佑介		
审查员(译)	沼田TadashiYoshimi		
优先权	61/329192 2010-04-29 US		
其他公开文献	JP2013525030A		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

一种用于执行外科手术的手术单装置包括具有开窗位置的手术单;多个容器连接到手术单;以及用于执行外科手术的多个部件。容器附接到围绕开窗部位的周边的手术单。每个容器包括至少一个组件。通过外科手术的连续步骤确定容器内部组件的布置。

(19) 日本国特許庁 (JP)	(12) 特 許 公 報 (B2)	(11) 特許番号 特許第5835750号 (P5835750)
(45) 発行日 平成27年12月24日 (2015. 12. 24)	(24) 登録日 平成27年11月13日 (2015. 11. 13)	
(51) Int. Cl. A 6 1 B 19/08 (2006.01)	F 1 A 6 1 B 19/08	

請求項の数 14 (全 14 頁)	
(21) 出願番号 (86) (22) 出願日 (65) 公表番号 (43) 公表日 (86) 国際出願番号 (87) 国際公開番号 (87) 国際公開日 審査請求日 (31) 優先権主張番号 (32) 優先日 (33) 優先権主張国	特願2013-508245 (P2013-508245) 平成23年4月28日 (2011. 4. 28) 特表2013-525030 (P2013-525030A) 平成25年6月20日 (2013. 6. 20) PCT/US2011/034283 WO2011/137223 平成23年11月3日 (2011. 11. 3) 平成26年4月10日 (2014. 4. 10) 61/329,192 平成22年4月29日 (2010. 4. 29) 米国 (US)
(73) 特許権者	511193846 クック・メディカル・テクノロジーズ・リミテッド・ライアビリティ・カンパニー COOK MEDICAL TECHNOLOGIES LLC アメリカ合衆国、47404 インディアナ州、ブルーミントン、ノース・ダニエルズ・ウェイ、750 (74) 代理人 100083985 弁理士 伊藤 茂 (74) 代理人 100175983 弁理士 海老 裕介
最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 外科用覆布キット